

受注企業動向調査結果

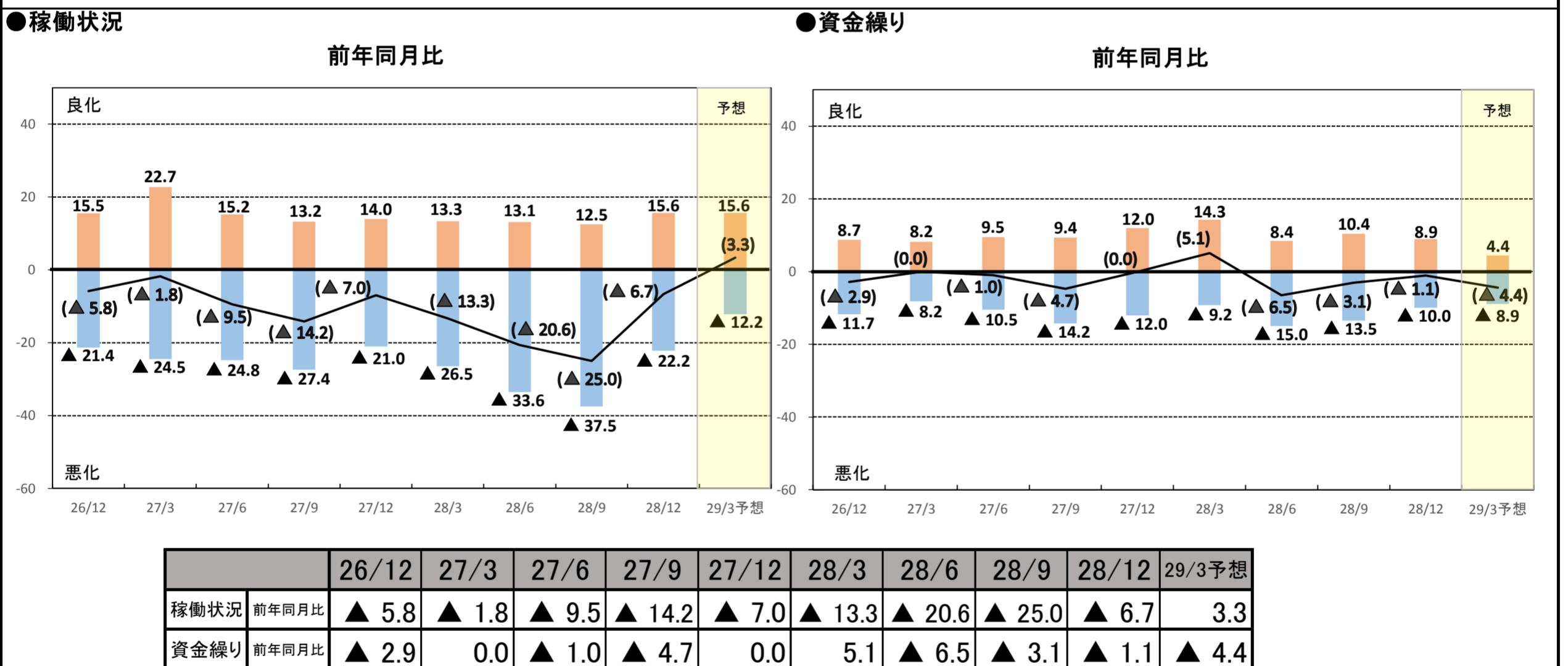
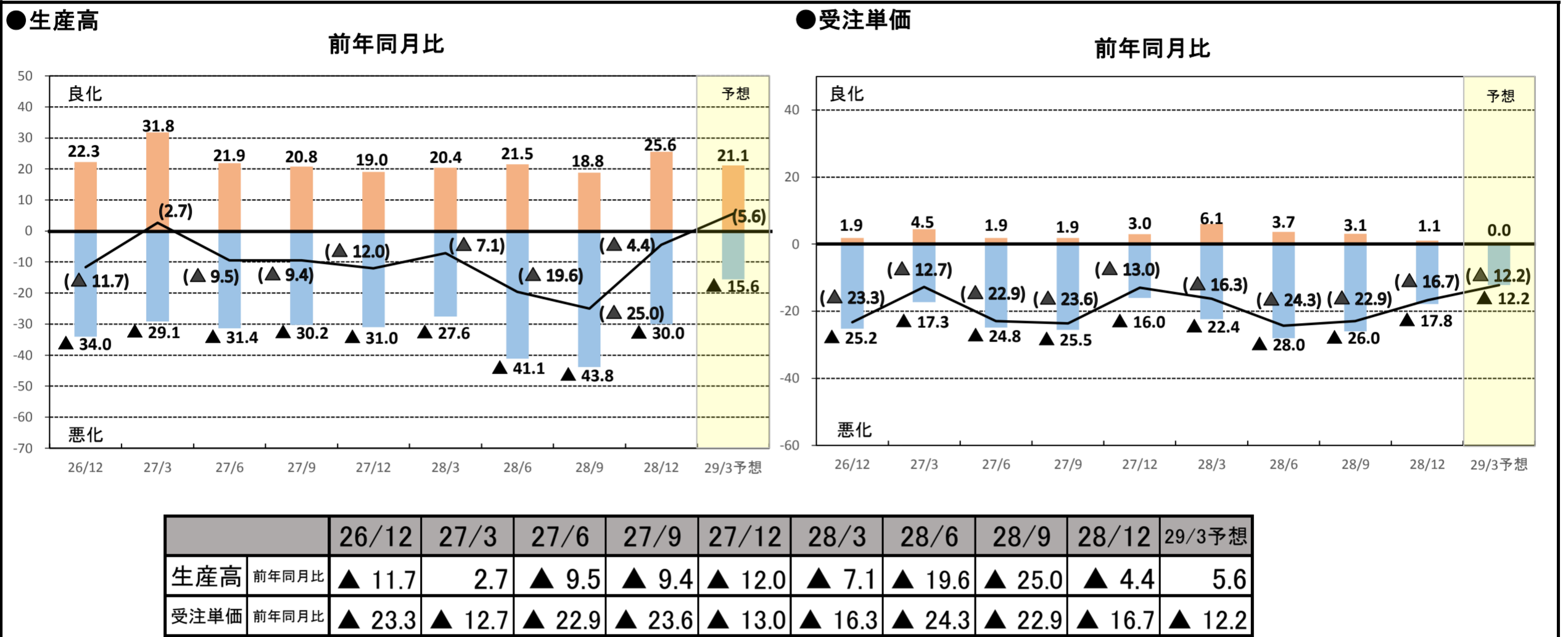
-2017.1-

- 調査時点 平成28年12月調査(平成28年12月末時点)
- 対象企業 150社
- 調査時期 4半期毎(3、6、9、12月末時点)
- 回答企業 90社(回答率:60.00%)

<業種内訳>

プラスチック	8社
鉄鋼・非鉄	7社
金属製品	20社
一般機械器具	16社
電気機器	17社
輸送用機器	7社
精密機器	10社
縫製	5社
計	90社

DI(Diffusion Index)とは、景気の動きをとらえるための指標であり、良化と回答した企業の割合から、悪化と回答した企業の割合を減じた数値です。



●概要(総合)

- ・生産高(前年同月比)DIは▲4.4で前回の▲25.0から20.6ポイント増で大幅良化となった。
- ・受注単価(前年同月比)DIは▲16.7で前回の▲22.9から6.2ポイント増で良化となった。
- ・稼働状況(前年同月比)DIは▲6.7で前回の▲25.0から18.3ポイント増の大幅良化となった。
- ・資金繰り(前年同月比)DIは▲1.1で前回の▲3.1から2.0ポイント増で横ばいとなった。
- ・3ヶ月後の予想DIは生産高が5.6で10.0ポイント増の良化、受注単価は▲12.2で4.5ポイント増の良化、稼働状況が3.3で10.0ポイント増の良化、資金繰りは▲4.4で3.3ポイント減で悪化という予想になった。
- ・為替の影響を受ける企業が多く、円安の進行により、回復傾向と答える企業が多い。受注減、人材不足などの問題を危惧する声もあるが、円安の継続に期待する声が多い。